

都市再生整備計画(第2回変更)

ふじさわ
藤沢地区

かながわ ふじさわ
神奈川県 藤沢市

平成26年7月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	藤沢市	地区名	藤沢地区	面積	70 ha
計画期間	平成 24 年度 ~ 平成 27 年度	交付期間	平成 24 年度 ~ 平成 27 年度				

目標 「賑わいのある中心市街地の再生」 目標1 活力ある中心市街地の形成 目標2 防災機能が高く安全で安心して暮らせる魅力的なまちづくり
--

目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 <ul style="list-style-type: none"> ・都市「藤沢」の生成は中世期、時宗総本山遊行寺門前町を起源に、江戸期の宿場町に至り遊行寺門前前帯を中心に市街地が形成されました。 ・明治後期から昭和初期に至る間、市街地から約1km南の現在地に国鉄、江ノ電、小田急各線の「藤沢駅」が開業し、駅方向に向けて市街地外延化が進行する一方、交通結節点としての駅前へ求心力が高まり、とりわけ、市街地中心への玄関となる北口地区への商業等都市機能立地が進み新たな都市拠点が形成されました。 ・更に都市機能の充実を図るべく、都市施設の整備と、市民生活の拠点整備とを目的に昭和50年～昭和54年にかけて藤沢駅北口市街地再開発事業が行われました。 ・藤沢駅北口市街地再開発事業は、北は藤沢村岡線までの範囲(約2ha)にとどまったことにより、藤沢村岡線以北の後背地区は再開発区域内から派生する諸機能を受け入れ一体となって都心機能を発揮する土地利用に耐える都市基盤施設が不足のまま今日まで推移し、平面駐車場等低利用のまま、商業地である特性を活かされていない状況です。 ・藤沢駅周辺の停滞感から、地元商店街を中心として、藤沢駅周辺地区の活性化を目指す「藤沢駅南北街づくり協議会」が発足しました。 ・また、マイカーの利用増や地区の集中型の道路事情とあいまって、道路交通の効率の悪化と自動車のふくそうによる歩行者の危険性が増している状況です。 ・これらの諸問題を解決すべく、藤沢北口駅前地区について、平成17年度、権利者や周辺自治会、事業者代表で構成された「藤沢北口駅前地区まちづくり検討会」を発足させ、検討会での意見、提案を基に、本地区のあるべき姿を、藤沢北口駅前地区整備計画として取りまとめました。
--

課題 <ul style="list-style-type: none"> ・藤沢駅北口周辺については、駅直近の商業地にもかかわらず平面駐車場等低未利用化しており土地利用の機能更新を実施する必要があります。 ・大型店の郊外立地により駅周辺商店街への来街回数が減少し、滞在性・買回性が弱くなっているため、藤沢駅南北地区の連携を図り、駅周辺商店街等を含めた中心市街地の活性化を促進するとともに地域の回遊性を創出する必要があります。 ・駅周辺地区の歩道の整備やバリアフリー化を図り、連続的な歩行者空間ネットワークを構築することにより、安全で快適な自転車、歩行者の動線を確保する必要があります。 ・駅北口における既存自転車駐車場不足に伴う、歩道上への違法駐輪をなくし、駅周辺での快適な歩行者動線を確保する必要があります。
--

将来ビジョン(中長期) (都市マスタープラン) <ul style="list-style-type: none"> ・「歴史と文化が息づく、湘南藤沢の都心部拠点」を地区の将来像とし、「にぎわいと、歴史・文化が共存する、都心にふさわしい拠点の維持再生」、「移動しやすい交通環境づくり」、「命と財産を災害から守るまちづくりの推進」、「藤沢駅周辺の活性化にむけた都市整備の検討」といった10項目をまちづくりの基本方針として位置づけています。 (新総合計画) <ul style="list-style-type: none"> ・「歴史と文化が息づく、湘南藤沢の都心部拠点」を地域まちづくりのテーマとし、地区別のまちづくりを推進していくこととしています。 (その他) <ul style="list-style-type: none"> ・藤沢駅周辺の市街地活性化と周辺地区のまちづくりのための計画として「藤沢駅周辺地区再整備構想・基本計画」を平成23年度末に策定しました。

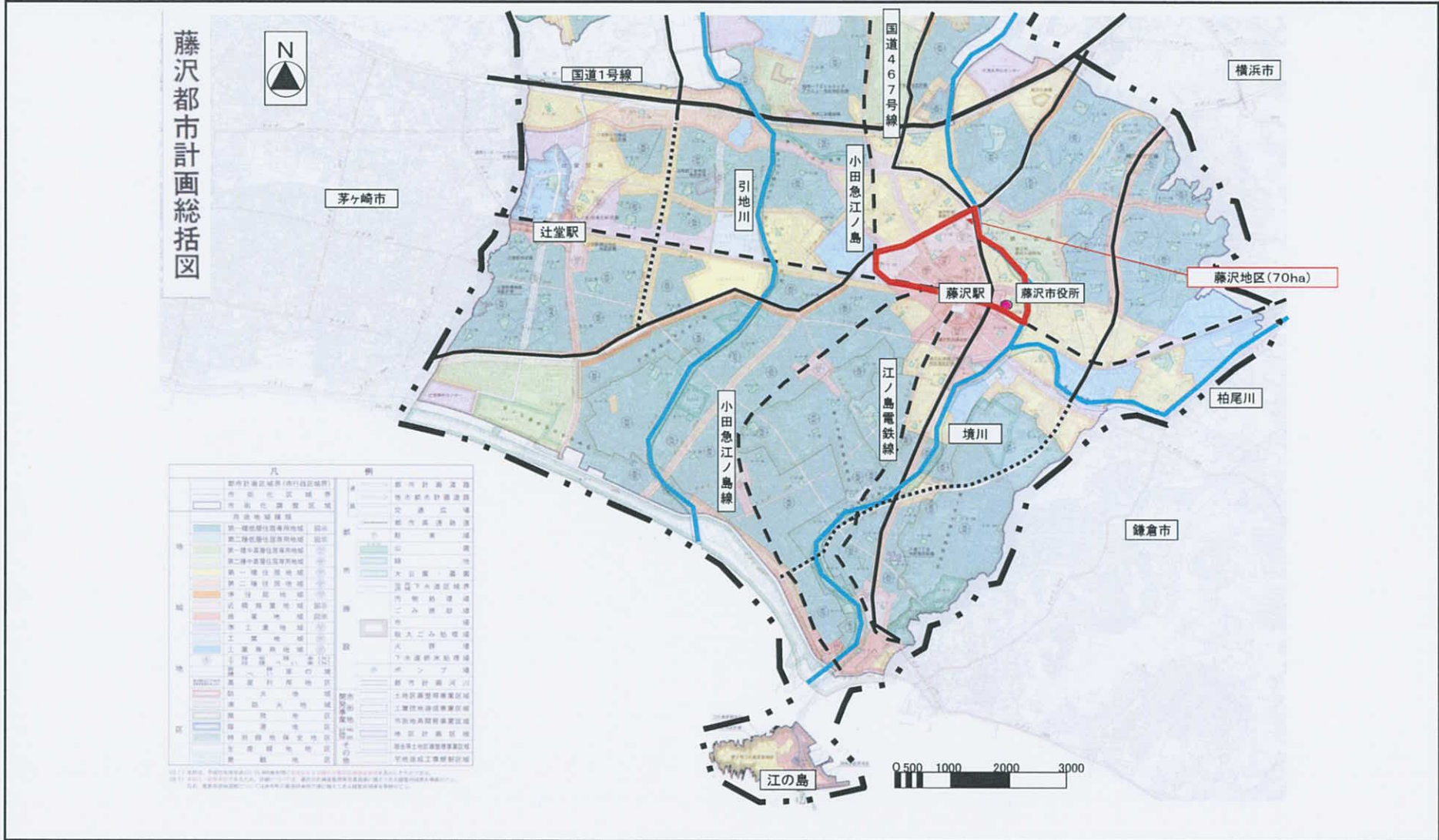
目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
来街者数	人/日	藤沢駅北口地区への来街者数	北口駅前の賑わい再生を目指し、近年の社会情勢による歩行者等交通量の減少(年平均3,000人減少)に対し、12,000人の増加を図る。	63,500	平成23年度	63,500	平成27年度
広域避難場所までの移動時間	分	藤沢駅から広域避難場所(翠ヶ丘公園)まで徒歩での到達時間(図上計測)	安全で安心して広域避難所まで移動できるよう、障害物による閉塞が少ない広幅員の道路を通る広域避難場所までの徒歩での移動時間を6分短縮する。	30	平成23年度	24	平成27年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(活力ある中心市街地の形成)</p> <p>・地区のポテンシャル高め、かつ駅から人(賑わい)をもたらし、地区内外の活動や暮らしを有機的に結びつけるため、駅前から地区内に人を引き込む南北方向の動線及び周辺市街地や商店街(藤沢銀座、遊行通り)とのつながりをもたらす東西方向の動線をネットワークさせるとともに、藤沢駅北口ペDESTリアンデッキからのアクセス性・利便性を向上させ、駅～地区～周辺商店街という新たな人の回遊(流れ)を生み出すことにより、北口地域の賑わいの再生を図ります。</p> <p>・駅北口の駐輪需要に対応するため、既存自転車駐輪場の再整備(拡充)を行うことにより、歩道上への違法駐輪をなくし、駅周辺での快適な歩行者動線の確保を目指します。</p>	<p>・基幹事業:道路事業(藤沢駅北口通り線、藤沢駅北口東西線、市道藤沢83号線)</p> <p>・基幹事業:地域生活基盤施設事業(駐車場:藤沢駅自転車等駐車場)</p> <p>・基幹事業:高質空間形成施設事業(藤沢駅北口通り)</p> <p>・基幹事業:高質空間形成施設事業(藤沢駅東西通り)</p> <p>・基幹事業:高質空間形成施設事業(藤沢駅北口デッキエスカレーター)</p> <p>・関連事業:(市)特定交通安全施設等整備事業(藤沢駅辻堂駅線、中学通り線)</p> <p>・関連事業:(市)地域活動推進事業</p>
<p>整備方針2(防災機能が高く安全で安心して暮らせる魅力的なまちづくり)</p> <p>・藤沢北口駅前地区及びその以西隣接地区の救助・避難動線機能を備えた、安全安心コミュニティロードとして整備します。</p>	<p>・基幹事業:道路事業(藤沢駅北口通り線、藤沢駅北口東西線、市道藤沢83号線)</p> <p>・基幹事業:高質空間形成施設事業(藤沢駅北口デッキエスカレーター)</p>
<p>その他</p> <p>○藤沢北口駅前地区については、平成17年度、権利者や周辺自治会、事業者代表で構成された「藤沢北口駅前地区まちづくり検討会」を発足させ、検討会での意見、提案を基に本地区のあるべき姿を、「藤沢北口駅前地区整備計画」として取りまとめました。</p> <p>○平成25年度に新市庁舎建設基本構想を策定しており、本地区内で今後着工予定です。新庁舎は、十分な耐震性能を有するとともに、防災倉庫、ヘリポート等を整備し、地域の防災拠点としての機能向上を図る予定です。</p>	

都市再生整備計画の区域

藤沢地区(神奈川県藤沢市)	面積	70 ha	区域	藤沢、朝日町
---------------	----	-------	----	--------



ふじさわ かながわけんふじさわし
 藤沢地区(神奈川県藤沢市) 整備方針概要図

目標	賑わいのある中心市街地の再生 目標1 活力ある中心市街地の形成 目標2 防災機能が高く安全で安心して暮らせる魅力的なまちづくり	代表的な 指標	来街者数 (人/日)	63,500 (H23年度)	→	63,500 (H27年度)
			広域避難場所までの移動距離 (分)	30 (H23年度)	→	24 (H27年度)
			()	()	→	()
			()	()	→	()
			()	()	→	()

